

平成27年6月30日

平成27年度 鉄道設備投資計画について

運転保安度の維持・向上、サービスの向上を目的に

約94億円の設備投資を計画

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪府中央区、社長：加藤好文）では、京阪グループ中期経営計画「創生果敢（2015年～2017年度）」において、“「鉄道復権」に向けた間断なき鉄道活性化施策の推進”を掲げています。当社鉄道事業においては、今後3年間で「成長軌道を取り戻すための3ヵ年」と位置付け、将来につながる基盤づくりを進めます。当社の最優先事項である安全で安心な旅客輸送を引き続き推進していくとともに、快適性・利便性の向上、すべてのお客様さまにやさしい環境づくりを目指し、平成27年度も鉄道設備への投資を実施します。

具体的には、運転保安度の維持・向上（約60億円）やサービスの向上（約34億円）を主な目的とし平成26年度より約2割増となる総額約94億円の設備投資を実施します。主な内容は下記のとおりです。

記

1. 運転保安度の維持・向上（約60億円）

○駅の耐震補強を実施

昨年度から引き続き、枚方市駅および守口市駅の耐震補強工事を実施します。枚方市駅および守口市駅は、駅施設としてのみではなく、一部店舗等としても運営しておりますが、大規模地震発生時における駅利用者の安全や鉄道駅施設の機能を維持することにより、さらにお客様さまに安心してご利用いただける駅となります。

また今秋より、浜大津駅の耐震補強工事にも着手します。今回の工事により、一般建築基準上の耐震性能を超える社内基準をクリアし、大規模地震発生時においても京津線と石山坂本線の2路線の結節駅として、お客様さまに安心してご利用いただける駅となります。3駅とも今年度末に工事が完了する予定です。



耐震補強工事（イメージ）



浜大津駅（現在の様子）

○変電所制御装置更新

変電所制御装置は、電力管理システムから各変電所を監視・制御するための装置であり、平成27～29年度で京阪線の16変電所のうち、すでに新システムに対応した装置となっている2変電所を除く14変電所に設置されている変電所制御装置を更新します。今回の更新により処理能力が向上するとともに、各変電所の故障表示・制御項目の細分化を図ることによって障害発生時の復旧時間短縮を図ります。



変電機器制御盤と変電所制御装置（外観図）



変電所制御装置

○大津線列車運行管理システムの更新

大津線においては、駅の信号機やポイントなどをダイヤ情報に基づき自動的に制御を行う「運行管理システム」を導入しています。今般、さらなる信頼性の向上と円滑な運行管理を目的として、本システムの更新を行います。平成28年3月の更新を予定しており、これまで同様、列車運行の定時性と正確性を保つほか、安定したシステム運用を図ります。



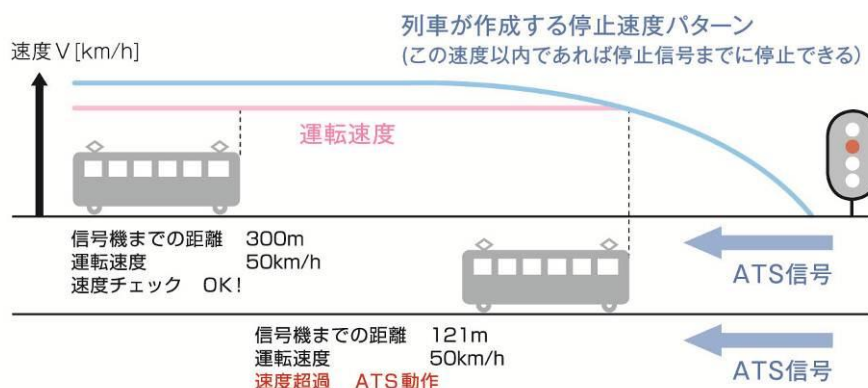
現行の大津線列車運行管理システム

○新型自動列車停止装置（新型ATS装置）の導入

京阪線において、より安全・安定的な輸送を目指した「多情報連続制御式ATSシステム」を新たに導入し、運転保安度の向上を図ります。平成27年度下期からの深草駅～出町柳駅間における供用開始に向けて導入作業を進めています。

・新型ATS装置（多情報連続制御式ATSシステム）の特徴

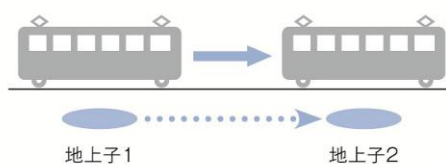
地上装置から列車に伝送された信号現示、転てつ器開通方向などの情報と、車上データベースに記憶された信号機位置、勾配などの情報に基づき、自車の制動性能と走行距離から上限速度を算出し、その上限速度値を用いて常時速度照査を行います。信号機や曲線などの情報に基づく制御に加え、踏切やホームでの異常発生時などにも対応する機能を有しており、従来にも増して安全性向上の実現が可能となります。



新型ATS概要図

・現行ATS装置（点制御式）の特徴

地上に設置した2つの地上子間の通過に要した時間を計測し、規定時間以下の時間で通過した場合は、速度超過と判断してブレーキを作動させます。



地上に設置した地上子間の通過時間を計測して標準時間と比較し、速度超過であれば自動的にブレーキを作動させるもの。

現行ATS概要図

○環境配慮型の新造車両を導入

環境への配慮やバリアフリーへの対応、安全性の向上に主眼を置いて開発された新型車両13000系を順次導入。従来車両（2200系、2600系）との比較で約35%の電力削減（運転用電力全体では約3%の削減効果（これまでに導入した38両と平成28年度に導入する18両の計56両を導入した場合）、走行騒音の低減、車いすスペースの確保、車体強度の向上等を実現します。今年度より製作を進めて、平成28年度に18両3編成を導入する予定です。なお、現在京阪線において639両の車両が運行しておりますが、今後も引き続き13000系車両の導入と従来型車両との置き換えを進めることにより、さらなる

環境への配慮や安全性の向上に努めてまいります。



13000系車両

(これまでの営業運転開始時期)

平成24年度	4月	4両1編成
	5月	4両1編成
	6月	4両2編成
	7月	4両1編成
平成26年度	4月	4両1編成
	5月	7両1編成
	8月	7両1編成

(今後の導入予定)

平成28年度	7月	4両1編成
	8月	7両1編成
	9月	7両1編成

2. サービスの向上（約34億円）

○旅客案内ディスプレイの導入

ダイヤ乱れ時などに、お客さまにタイムリーな情報提供ができるように、旅客案内ディスプレイ（40～50インチ型を予定）を平成29年度までに京阪線全駅に導入します。これまでも、ホームページでの「列車運行情報」による情報配信や、駅案内放送、車内告知、行先表示器等による緊急メッセージでご案内をしておりましたが、今後導入する旅客案内ディスプレイでは、障害発生箇所や列車遅延・運休情報、振替輸送の案内等の情報を、視覚的に、かつ一斉に提供することが可能となり、ダイヤ乱れ時の情報提供を強化します。また、平常時は沿線観光案内やマナー啓蒙など多様な用途に活用し、さらなる案内サービスの充実を図ってまいります。今年度は、京橋駅や枚方市駅など、合計18駅への導入を予定しています。

○祇園四条駅の美装化

京都を代表する観光地・東山エリアの中心に位置する祇園四条駅を、大幅にリニューアルします。東山エリアのエントランスにふさわしいイメージを表現し、訪日外国人をはじめとする観光のお客さまに、京都らしさを感じていただけるような演出を施します。また、コンコースを中心とした“駅ナカ”は、インフォステーションの配置、観光案内の機能を強化するとともに、商業スペースの拡大を構想するなど、京都・東山のエントランス機能を充実させます。来年春の完成を目指します。



祇園四条駅リニューアル（イメージ）

○快適なトイレ環境の整備

お客さまからのご要望をもとに、当社線の駅トイレをリニューアルします。清潔感の向上を基本としながら、高齢者や子育て世代にやさしく、さらには訪日外国人の増加など社会環境の変化にもお応えできる機能を備えたトイレ空間づくりを目指します。個室は全洋式化し温水洗浄便座を導入、パウダーコーナーや幼児用器具（便座）の設置、訪日外国人に配慮した分かりやすいご案内（衛生器具の使用方法を4カ国語やイラストで表示）を施します。また、環境に配慮し、節水タイプの衛生器具やLED照明を採用します。今年度は美装化を計画している祇園四条駅のトイレのリニューアルを実施します。



当社での事例（樟葉駅）



4カ国語やイラスト表示の例

○車両（6000系）の美装化およびバリアフリー化

既存車両（6000系）に対し、車いすスペースや液晶型車内案内表示器、ドアチャイムの設置などバリアフリー化への対応のほか、内装材の取り替え、非常通報装置の設置、座席の更新や握り棒の増設など、当社最新車両のインテリアデザインをベースに車内を刷新します。液晶型車内案内表示器には停車駅などのご案内のほか、ニュースや天気予報などの情報提供も充実させます。また老朽化した制御装置等の機器を改修することで、故障に対する予防保全および機器の保守軽減を図ります。今年度も継続してリニューアル工事を実施し、平成33年度には6000系車両全編成（112両14編成）のリニューアルが完了する予定です。



6000系リニューアル車両外観



車内インテリア

以上